



なつめ 11月号

〈編集・発行〉
鹿児島市立喜入小学校
〈発行日〉
令和3年11月30日

心を育てる

校長 内村 英人

11月の保健目標は、「心の健康について考えよう」でした。
そして、そのための取組を以下のように三つ設定していました。

- ☆ 一日1回、読書などのリラックスする時間をつくろう。
- ☆ ストレスをためないようにし、もやもやしたことは誰かに相談しよう。
- ☆ 友達と仲良く遊び、いいところを見つけよう。

三つ目の「友達のいいところを見つける」取組の一つとして、保健室前の掲示板に、見つけた友達のよさをカードに書いて貼るコーナーを設置すると、掲示板は、あっという間に、見つけた友達のよさでいっぱいになりました。

「いつも手伝ってくれてありがとう。」
 「いつも優しくしてくれてありがとう。」
 「ドッジボールが強いなどと思っています。」
 「いつもお勉強を教えてくれてありがとう。」
 「一緒に持久走の練習をしてくれてありがとう。」
 「会った時、いつも『おはよう』『バイバイ』と言ってくれて、ありがとう。」
 「勉強が分からないときか、一生懸命するところが、かっこいいな。」等々



【保健室前の友だちのよいところコーナー】

様々なよさが書かれています。多くは、友達に何かをしてもらったことを書いています。中には、友達の強みや努力する姿、また、「トイレのスリッパをならべていた」と、ルール・エチケットを守っている行動等を讃えている言葉もありました。友達のよさを知っている子どもたちです。

しかし、感情のままに相手を非難して傷つけてしまうこともあります。そのことを叱られたときに、叱る大人は、その子のよりよい成長のためを思い、誤りを正そうとしているだけであることを子どもは理解できないこともあります。理解させたいことは何かといえば、自分の喜びとともに、友達や学級みんなにとっても喜ばしいことは何かを考えることの大切さです。

鹿児島の道徳教育は、「利他の心」で共によりよく生きることを考えるということを大切にしてきたという歴史があります。自分自身の幸せとともに、他者の幸せ、そして社会の幸せも追求する心を育てることは、社会がどのように変わろうとも大切にしたいことだと考えます。

「分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ」

これは、「子どもが育つ魔法の言葉」（1999年発行）の著者ドロシー・ロー・ノルト氏書いた「子は親の鏡」という詩の一節です。学校での学習も、遊びも、家庭での生活においても、「分かち合うこと」を学ぶ時間であることを意識することが、今の子どもの心の成長には大切なのではないかと思います。

抵抗力を高めましょう
(十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)